「豊かな生活」とは何か。時間と空間、お金、そして心のゆとり――。あなたにとっては、どれが一番ですか?

上流自治体はどこだ

五つの指標で都道府県を格付け

浜辺に佇む白いデザイナーズハウス。玄関を入ると、薪ストーブの穏やかな香りが漂ってきた。大きく切り取られた窓からはまだ弱々しい春の陽が差し込み、誰もいない砂浜が一望できる。

家主の豆川雅生さん(47)が休日、四輪駆動車を駆って向かうのは自家用ヨットが停泊するマリーナ。錨を揚げ、沖へと漕ぎ出す。

難点は、荒れ狂う白波と常に泣き出しそうな空。そう、ここは日本海・富山湾の一角。

「晴天が少ないのが難点。時々くじけそうになります」

ふだんは富山市内でウェブや広告印刷物などのデザイン会社を経営する。県内出身だが、18歳で音楽家を目指し上京。音楽雑誌の編集・制作を手伝ううちに、営業から手がけるようになった。広告全体をコピーライターまで担当する。インターネットなどの発達で、かつてのような「情報飢餓感」は激減、都会との距離もハンディではなくなった。打ち合わせなどで、東京との間を週に2往復することもあるが、富山空港までは車で15分。無料駐車場に停め、飛行機に飛び乗れば45分で羽田空港だ。ドア・ツー・ドアで銀座まで2時間かからない。

「都会で刺激を得て、富山でオフを楽しむ。いいとこ取りかもしれませんね」

富山県は以前から「住みよさ日本一」を標榜してきた。住環境をはじめ経済指標など多くの指標で常に上位に入る。「秘密」のひとつは、豆川さんのようなUターン者の多さだ。高校進学率日本一、短大・大学進学率も約5割で14位という教育県。県外への大学進学率は7割以上にもかかわらず、Uターン率は東京、沖縄についで全国3番目に多い。

県労働雇用課の担当者は、

「35歳人口の故郷への定着率は、8割5分を超える。近年は少子化で長男・長女が多く、ますますUターン者は増える傾向に。彼らは都会の動向にも敏感で、かつ富山の住みよさも享受している」

ちなみにこの担当者2人もUターン組。オープン間もない東京・表参道ヒルズも既に訪れていた。

高い地元定着率を支えるのは好調な雇用。有効求人倍率、完全失業率なども高順位。古くからYKKや不二越といった大企業が本拠を置き、機械、金属、電子部品などの製造業が盛んだ。「薬売り」の伝統以来続く医薬品などの化学製品出荷額も増えている。

雪は多いが、地震や台風など災害が少ないこともあって、米同時多発テロ以降は特に本社サーバーを富山県に移設する大手IT企業が少なくない。企業誘致も進んで、住宅や飲食店の新規着工に沸く街もある。女性の就業率も高い。

富山ベースに世界へ

東京で客室乗務員をしていた森幸恵さん(38)も、結婚・出産を機に富山へ戻った。保育所入所率も高く、待機児童ゼロという充実した子育て環境のうえ、近くには親族も住む。同郷の夫が地元で起業する傍ら、自らは地元テレビ局のアナウンサーとして再就職した。

だが、県内では会う人間も固定され、飲食や買い物も常に人の目があって自由になれない。2年半前、テレビ局を退職、国際線の契約客室乗務員に戻った。富山に居を構えたまま、関西空港をベースにハワイ線やバンコク線などを担当。長時間フライトの後に特急で富山に帰り、賃金は交通費に消える生活でも、「世界に開かれている感」を味わうことができた。

今回、アエラでは様々な統計指標を「学ぶ・育てる」「安心・安全」「働く・稼ぐ」「住む・暮らす」「楽しむ・生きがい」の五つに分類、「都道府県別・上流度ランキング」を実施した。結果、福井の総合1位を始め、石川が3位、富山が5位と北陸3県はすべて5位以内。年間降水日数が多く、どちらかというと地味な地域。だが、共働き率が高いことなどから所得水準が高く、雇用情勢も堅調とおしなべて経済指標は高い。住居の広さなど「住環境」もトップ級。待機児童率が低く、高齢者福祉の充実度など「子育て」「安心」指標も高い。

大都市周辺の上位県

トヨタを中心に好調な経済を反映し、愛知も8位、静岡は7位にランクインした。目を引くのは大都市圏の周辺地域の「上流度」だ。滋賀や岐阜はベッドタウンとして急成長。総合2位の滋賀は、出生率が2位、県民所得は4位、高いボランティアやスポーツ参加率など全分類で高順位につけた。

中でも滋賀県栗東市は2001年に市制施行されたばかりだが、全国750余の市で、財政力指数、人口当たりの地方税収入額ともに1位と財政力が際立つ。05年の「全都市住みよさランキング」(東洋経済新報社)で総合評価1位を獲得したことも話題を呼んだ。

「国道1号と8号が交わり、名神高速道路のインターチェンジもある栗東市は交通の要所。早くから日清食品、積水ハウス、松下電工、三菱重工業など、多数の企業誘致に成功した。業種が様々なので、景気に左右されにくい面もある」(同市秘書広報課)

6年後には、新幹線の新駅「びわこ・くさつ空港」も開業する。

編集部 柏木友紀、坂井浩和 ライター 国府田直子 写真 高井正彦

格差社会は、地域間の「住みよさ度」の明暗も分ける。リッチな県、住環境が整っている地方、子どもを産み育てやすい都市。住む街によって、「幸せ度」にこれほどまで格差が生じていた。

豆川雅生さんは3年前にヨットを始めた。今では手入れも含め、週末はほとんど海に出る。「仕事頭を切り替え、『自分の風』にあたるのには、海は最高」

都道府県上流度ランキング

総合

1位 福井県
1人当たりの県民所得は14位だが、山形についで2位という共働き世帯の割合のせいか、年間収入額、消費支出額(ともに世帯当たり)の高さともに1位。失業率は全国で最も低い。サイバーエージェントの藤田氏をはじめ、県出身者には企業の社長が多いとも言われる。娯楽施設は少なく趣味・娯楽に使う時間は全国最低。短大・大学進学率は9位、世帯当たりの教育費支出額は13位と多くの指標が平均以上。

2位 滋賀県
大阪や京都のベッドタウンとして若い世代に人気上昇中で、出生率は10.1%で沖縄についで2位。近江商人の地にふさわしく、人口10万人当たりの百貨店の数は1位。県民所得は4位、ボランティア活動参加率1位、スポーツの参加者数も3位。

3位 石川県
失業率が低く、年間収入額も全国4位と高い。教育熱心でもあり、男子の大学進学率は京都についで2位。持ち家率、延べ床面積、平均寿命も10位内をキープ。

4位 広島県
年間降水日数が全国で5番目に少ない温暖な地域。出生率は全国7位。大学進学率も4位。突出した項目は少ないが全指標において平均以上。

5位 富山県
持ち家率1位、延べ床面積1位、都市公園面積3位と、住環境に恵まれている。年間収入額は2位、生活保護受給率は全国で最も低い。

5位 岡山県
年間降水日数が2番目に少ない。自殺率も最も低い。県立図書館の予算額が1位。平均初婚年齢が低く、出生率も7位。

7位 静岡県
失業率が4番目に低く、生活保護受給率も5番目に低い。県民所得は3位。

8位 愛知県
トヨタ自動車などのおかげで有効求人倍率は全国1位、県民所得も2位。出生率も3位とおしなべて指標は上位。平均教育費支出額が6位、大学進学率も6位など教育熱心でもある。だが、犯罪発生率が大阪についで2番目に高く、対人口当たりの病床数が下位から4位と、安心・安全の面が足を引っ張る。

9位 群馬県
首都圏への交通の便がよく発達した工業都市がある。有効求人倍率は全国2位。

10位 長野県
平均寿命が全国1位。共働き世帯の割合は6位で、生活保護受給率は5番目に低い。

10位 岐阜県
名古屋のベッドタウンとしても人気。持ち家率は4位、失業率は全国で2番目に低い。

12位 東京都
住宅地平均価格は最も高く、持ち家率は45位、述べ床面積と都市公園面積はともに全国最下位と、厳しい住環境であるにもかかわらず、出生・死亡を除いた人口の社会増加率は全国トップ。課税対象所得、県民所得はともに1位と財政面での強さが目立つ。

184センチ、72キロのスリムな体形は愛犬レオンと共に海岸を走り、毎日欠かさず通うジムでの水泳のたまもの